

オピニオン

出羽三山、魅力を発信

提言

2016年、文化庁より、

「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』」が日本遺産として認定されました。鶴岡市、庄内町、西川町をまたぐエリアで出羽三山を中心に31の文化財で構成されています。

日本遺産の目的はストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形無形のさまざまな文化財を、地域が主体となって整備・活用し、国内にとどまらず海外にも戦略的に発信していくことで、地域の活性化を図ることとされています。



六十里越街道保存推進委員会委員長

しだ やすひこ
志田 靖彦

認定を受けたことはゴールではなく、始まりにすぎません。われわれ地域の人々の覚悟が試されていると言えま

私が関係する六十里越街道保存推進委員会でも、早速、さまざま取り組みを始めています。その一つが、西川町本道寺から鶴岡市松根までの42キロ、六十里越街道を走り抜けるトレイルランニング大会(18、19日開催)です。走る「行者」の熱い戦いが期待されます。

また、月山の登拝口八方七口のうち三口が西川町にあります。その登拝口にある三つの神社を巡る旅も企画されま

場と統合して無くなったたり、今まで便利に使っていたお店が無くなったたり、バスが走らなくなったりと現実の生活にもじわりじわりと変化と不便を来しているのではないでしょう

この流れを止めるために、国も地方もインバウンドや交流人口の拡大に血眼になっていきます。既に衆知の数値ですが、日本の1人当たりの年間消費額が124万円といわれています。この1人減少分の消費額をどうカバーするか。外国人旅行者の場合は7人、国内の旅行者の宿泊であれば(1人当たり5万4千円)22人に必死です。

交流人口の増大に向けて地域間競争が熾烈(しれつ)です。いかに知名度を上げるか、ブランドイメージを高めるかに必死です。

日本遺産の認定が始まりにすぎないことに思いをきたし、足元の宝を地域活性化にどうつなげていくのか奮闘努力していきたいと思えます。

(西川町在住)

日本遺産認定を始まりに ■ 旅行者増へアイデア